

16 年度学術交流支援資金「外国語電子教材作成支援」報告書

科目名：フランス語 インテンシブ、ベーシック

総合政策学部
國枝孝弘

SFC フランス語セクションでは、15 年秋学期より、français sans manuel 「教科書なしでフランス語」という特別クラスを、インテンシブの枠内に設けた。あらかじめ教科書を指定して、その進度によって教えるのではなく、週 2 回は、教室で学生と相談をしてその場でディスカッションをする話題を決定し、主に「文化」の観点から授業を行なう。1 回は、その授業内容に基づいて、文法項目を設定し、説明をする。もう 1 回は、それらをまとめる回であり、習った事を再活用・応用をねらいとする。

ただし、教科書がないとはいえ、教材がないわけではない。実際には、その都度その都度、内容に合致した「教材になりうる」ものをネットで収集し、それを実際には授業で用いた。たえず、WEB で検索をかけ、資料を学生に提示する。つまりその試みは「生成する教材作り」である。

その際の問題は、フォーマットのある教材＝教科書ではないために、常に散逸の可能性があること、そしてチームティーチングをしている以上教材の共有化が必須であるが、それがなかなかできないという点である。

そのため、教材を集積し、学習者もまた他の教員も随時使える WEB 上のプラットフォームを作成した。

3	le 21 avril	<ul style="list-style-type: none">・ la date・ situation familiale	<ul style="list-style-type: none">・ discrimination à l'embauche・ compétence d'abord・ prénom et origine	<ul style="list-style-type: none">・ campagne(document pédagogique)・ Journal France3 le 18 avril(podcast)・ wikipedia	<ul style="list-style-type: none">・ https://www.publicsenat.fr/cp/politique/competences-dabord-gouvernement-lance-une-campagne-contre-discriminations-l-embauche-1・ https://fr.wikipedia.org/wiki/Jean-Vincent_Placé
5	le 12 mai	<ul style="list-style-type: none">・ situation familiale・ J'ai un frère / je n'ai pas de frère.	<ul style="list-style-type: none">・ visite officielle d'Obama・ pas d'excuses officielles・ victoire de Sadiq Kahn・ En France, je n'aime pas	<ul style="list-style-type: none">・ RFI(le 11 mai)・ L'Obs(le 7 mai)・ JURAPON, Le brog fan du Japon	<ul style="list-style-type: none">・ http://www.rfi.fr/ameriques/20160511-japon-obama-hiroshima-pas-excuses-officielles-etats-unis・ http://internet.nouvelobs.com/monde/20160507_OBS9987/victoire-de-sadiq-khan-a-londres-l-unite-plutot-que-la-division.html?xtor=RSS-14・ https://jurapon.wordpress.com/2013/07/20/ce-que-les-japonais-aiment-en-france-ou-pas/
6	le 19 mai	<ul style="list-style-type: none">・ ce qu'on mange au petit déjeuner	<ul style="list-style-type: none">・ une application pour les sourds-muets	<ul style="list-style-type: none">・ Journal France3 ??? (podcast)	

授業日の後、左から学習目標、その目標のために用いた教材、その教材のレフェランス、そして URL である。授業で用いたのち、学習者も、あるいは別の機会に別の教員が共有できるようになっている。このような形で教材のデータベース化により、従来の教科書に頼らずとも、ひとつの統合された学びが可能となる下地が出来上がった。

次に、同じように使う動画教材であるが、フランスの文化を映像で理解できる工夫をこらした。

(キャプチャー画像1)



たとえばキャプチャー画像1は、映画館の前であるが、映画について必要な情報になる、吹き替えかどうか、年齢制限があるかどうか、また上映時間が一眼でわかるようになっている。

(キャプチャー画像2)



キャプチャー画像 2 では、フランスの日常生活が理解できるようになって

いる。家庭電化製品についてや、キッチンに洗濯機が組み込み担っている点など、日仏文化の比較のための動画教材である。

(キャプチャー画像 3)



キャプチャー画像3はホテルが舞台だが、単にホテルに泊まるという実用的学習だけではなく、エコへの取り組みを紹介することによって、やはり文化学習ができるよう工夫をこらした。

以上、今回の外国語電子教材は、オーセンティックな場面を学生に提示することに成功している。それによって、単に「言語」だけではなく、フランスの日常を通じて、文化学習ができるようになっている。学生たちはみずからの興味とクラスでのディスカッションによって、自ら学びたい内容を決定する。教材はあくまで、その学びのサポートのためにあるのであり、動画補助教材は、学びの下支えとして機能する。

また教科書の「呪縛」から解放されることによって、教員も自らの教え方に反省を迫られる。この動画教材はあくまでも「素材」であり、それを用いて、学生と一緒に授業を構築していくのは、教員の創意工夫に依っているからである。この素材を使って、言語と文化について何をどういう順序で学生に与えていくか、またそこからディスカッションの種を探してこられるかは、教員の力量にかかっている。その意味でも今回の動画教材は、これまでの学習法の見直しもせまるものとなった。